

平成29年度 第3回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成29年11月28日(火) 午前10時00分 開会
午前11時50分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2階 中会議室
- 3 出席者
・町長 佐野 和広 ・教育長 渡辺 拓雄 ・教育長職務代理者 望月 恵美
・教育委員 入月 一巳 ・教育委員 四條 勉 ・教育委員 芦澤 和彦
- 4 事務局等の出席者
町長部局 総務課長 望月 哲也
教育委員会事務局
生涯学習課長 梶原 猛 学校教育課長 市川 隆 学校教育課主幹 渡辺 正樹
- 5 協議事項
(1) 小学校適正配置について
(2) 中高連携について
(3) その他
- 6 議事経過の概要
次のとおり

1 開会 望月恵美教育長職務代理者

今年も残すところ1カ月余りとなりました。寒さも日に日に増しております。今日ニュースで殺人インフルエンザという恐ろしいネーミングのものが海外から入ってくるかもしれないということを聞きました。私自身も子供たちも健康管理に十分気を付けて過ごしたいと思います。

この会議も今年度最後の3回目となります。私にとりましても最後の総合教育会議となります。有意義な会議となりますよう皆様のご協力をお願いします。

2 町長あいさつ

年の瀬のたいへんお忙しい時期にお集まりいただき、ありがとうございます。

いよいよ大事な決断を下す時期になりました。昨日、南部町議会の全員協議会で小学校の統廃合を行うことを表明いたしました。答申では平成33年度を目途に統合とありましたが、1年前倒しして平成32年度に統合したいということも申し上げました。このことは、1月1日の施政方針あいさつの中で述べさせていただくほか、12月14日に開催される女性団体連絡協議会の「町長と語る会」でも話す予定です。今後は統合に向けての動きが加速するわけです。タイトなスケジュールになりますが、教育委員の皆さん、学校教育の職員には大変ですが是非頑張ってお集まりいただき、取り組んでいただきたいと思います。

3 教育長あいさつ

お集まりいただきましてありがとうございます。

今日は強い風が吹いておりますが、風が無ければ小春日和と言われるような気候です。小春と言うとのどかな響きを想像しがちですが、現実には次年度の準備や1年間を振り返る時期ということで、皆様には日々多忙感をもってお過ごしのことと思います。

本日は3回目の会議となります。今年度は3回とも同じテーマを設定させていただきました。「小学校適正配置について」と「中高連携について」の2つのテーマについてご議論いただいております。町の将来や町の教育に深く関わるテーマとなりますが、町長のご挨拶にありましたように、この11月になってだいぶ輪郭が明確になってきました。さらにその輪郭を形あるものにしていくためには、皆様方の意見交換が大変重要になってくると思いますので、活発なご意見をいただきますようお願い申し上げます。

本日はよろしく願いいたします。

4 議事

(1) 小学校適正配置について

(教育長) 11月17日に開催した小学校適正配置に関する町報告会の会議録が資料として用意されています。この報告会につきましては、前回会議でいつどんな形で開催するかご議論いただきました。それを踏まえて、本日は報告会の結果から入っていきたいと思いますので、会議録を基に事務局より説明願います。

(事務局) 前回会議において決定されたとおり、町内全域を対象とする形式で開催いたしました。参加者は58名でした。報告内容は、①南部町立小学校適正規模等検討委員会への諮問、答申、教育委員会から町長への具申について、その概要を含めた経過説明、②各種教育懇談会の開催及び参加結果説明、③アンケート結果説明、④具申内容に沿って統合を進めるという方向性を決定した町総合教育会議による協議結果説明です。

質疑応答及び意見交換の内容は、資料のとおりです。

(教育長) この報告会には教育委員の皆さんにご出席いただきました。内容についてご意見をいただきたいと思います。

(望月委員) ご発言くださった方は、ほとんど万沢の方だったと思いますが、他の地区の方々のご意見を聞くことができれば良かったのではないかと思います。子供の数が少ない状況は教育環境として良いとは言えないが、学校が無くなることで地域が衰退してしまうという不安が大きいのだと感じました。このことは教育委員会だけでできることではないので、町全体で取り組んでいただいて不安を取り除くよう努めていただきたいと思います。

(教育長) 報告会の発言にもありましたが、全体のビジョンを共有できるような段階に向かっていくべき時期だということですね。

(芦澤委員) 一部アンケートを住民投票と勘違いしている人もいらっしゃったようですが、流れ的にはアンケート結果のとおりだと思います。最終的に町長が表明されて動き出すと思うのですが、報告会の発言にもありましたように地域の安心が得られるようなまとめ方をしていかなければなりません。皆で取り組む必要があります。いよいよスタートラインに立ったなという感じがしました。

(四條委員) 町会議員さんのご発言によって意見が出るようになったわけですが、これまで

いただいたご意見と違うものはありませんでした。以前にも申し上げましたが、80% くらいの同意が得られていれば、この形で進めるのが普通の考え方であろうと思います。当然納得されない方もいらっしゃるでしょうが、事務局は丁寧に説明を重ねてきました。これからが大事であろうと思います。

学校存続を求める長いつきあいの友人と、互いの立場について腹を割った話をしましたが、主張の隔たりは埋まらず双方歩み寄ることはできませんでした。その点では、教育長や事務局は実に丁寧に辛抱強く説明されたと思います。

(入月委員)「十分に説明して住民の皆さんの理解を得た上で」と具申にありましたが、そのとおりに十分説明してきましたし、アンケートの結果からも理解されたと判断できます。確かにアンケートには理解イコール統合賛成ではないという意見がありましたが、それを強く考えてしまうと身動きがとれなくなってしまいますので、ここは新たなスタートラインに立ったなという気持ちで報告会の様子を聞いていました。実際、万沢に学校を残したいと言っていた何人かと話をしても、あれだけの結果が出ると仕方ないというムードなのです。やはりアンケートは民意を代表するものですし、民意がそう答えているわけですから、ここからは良い統合、希望のある統合になるように持って行くことが大きなポイントになってくると思います。それを実現することによって次の栄と睦合の統合につながっていくわけですから、これからが正念場だという気持ちです。

(教育長) 4人の委員からご意見をいただきました。これまでの取組みが一区切りについて、新しいスタートラインに立ったのではないかというご指摘だったと思います。その点について町長のご意見をうかがいたいと思います。

(町長) これまで総合教育会議で議論し、教育委員会が取組み、結論が出ました。私も検討の結果、最終的には1年前倒しで統合することを決意し、議員に表明しました。万沢小学校は私の母校ですから人一倍廃校の辛さを感じます。しかし、町全体のことを考えるとそう言うてはいられません。大事なのは教育環境を適正な規模にすることです。そのために統合を進めてまいりたいと思います。

(教育長) ありがとうございます。報告会を一つの区切りとして位置づけることを確認していただいて、次のステップに進むということによろしいでしょうか。

【異議なし】

(教育長) ありがとうございます。皆さんからご意見をいただいたように、報告会は教育委員会としても次のステップへの決意につながる会になったと考えています。

それでは、先程町長のご挨拶にもありましたが、いくつか確認させていただきます。昨日の町議会全員協議会で平成32年4月に新しい学校をスタートさせることを表明したこと、このことを12月に開催される女団連の「町長と語る会」でも明らかにすること、さらに1月1日の新年のあいさつで全町民に向けて表明するというお話がありました。この総合教育会議の中でご確認いただきたいと思います。

それでは次に進みます。今後、何を目的に、どのようなスケジュールで、何をしていくのかについて事務局から説明願います。

(事務局) 昨日、1年前倒しで統合すると表明されたばかりですからそのスケジュールに合わせた資料を準備する時間はありませんでしたので、中学校が統合した際の経過報告資

料を参考資料とさせていただきます。(資料の中身を説明し)新しい小学校について検討する委員会を今年度中、2月か3月に立ち上げさせていただきたいと思います。メンバーは学校関係者、保護者、地域の方々を考えております。検討内容として、まずは新たな学校の扱いです。それぞれを廃校として新しい学校をスタートさせるパターンと、富河小学校に吸収統合するパターンが考えられるわけですが、伝統を重んじる意味で事務局としては前者を選択すべきであると考えております。そうなりますと校名を決めなければなりません。校名を決定していただいた後に設置条例の改正を議会で審議していただくこととなります。委員会は月に1度くらいのペースで開催し、6回程度、つまり平成30年度の前半までにソフト面の中身を決定していきたいと思います。また、老朽化が進む学校施設についてハード面の整備も必要なので、平成30年度は長寿命化計画にも取り組み、どこにどういった手当てが必要か検討し、同年度内に詳細設計を終えたいと考えております。その際、委員会で求めるものがあれば反映させていけるスケジュールになるのではないかと思います。

(教育長) より良い教育環境を整備するには、ソフト・ハード両面で取り組む必要があるとの説明でした。ハード面については、これから調整が必要ですから、ここではソフト面についてご意見をうかがいたいと思います。

(芦澤委員) 限られた期間の中で検討しなければならぬわけですから、事務局サイドで見通しがつくものと委員会に委ねるものを、ある程度分けた方がよいと思います。また、委員長は互選という形になると思いますが、事務局と意思の疎通が図れる人の方が最終的には良いものをまとめられるのではないのでしょうか。中学校の前例もありますので参考にすれば、示された期間でできると思います。統合の在り方は、吸収合併は事務的に楽ですが、将来を見据えて考えたら対等合併の方がよいと思います。ある程度将来像を描いておくことが重要でしょう。

(四條委員) 身延中学校と下山中学校が統合した時は、対等合併でした。下山中学校は閉校記念式典を催して終了しましたので数百万円の予算がかかりました。一方で身延中学校は式典を行いませんでしたし、校歌の歌詞を少し変えただけだったので予算は数万円で済みました。検討会も3回で結論に至り、揉めることはなかったようです。

本町の統合も対等合併になると思いますが、ともに記念式典を行えば数百万円かかるでしょうから、身延中学校のケースに似た形が望ましいと思います。

ただ、西嶋小学校と静川小学校が統合する際は、だいぶ揉めまして10回くらい検討会議を開いたようです。

おそらく校名、校歌を変えることになり、それにかかる費用も生じるでしょうが、残る方の学校の記念式典を省くだけでも数百万円の支出を抑えることができますので、検討会で検討する際に、そのような方向性があってもよいのではないかと思います。

(入月委員) 良い合併になったと言えるものにすることが重要なポイントになると思います。では、そのためにどうすればよいのか。私が蒲原中学校にいたときに、統合して蒲原町立蒲原中学校から静岡市立蒲原中学校になりました。その時に学校間のすり合わせにたくさん時間をかけ、両校の良さを最大限取り入れました。

ですから、万沢小学校と富河小学校も学校間のすり合わせ、教育課程のすり合わせを

し、両校の良さを生かしながら新しい学校が立ち上がっていく、それが良い合併につながるのではないかと思います。

(教育長) それぞれ特色ある教育を積み上げてきた両小学校ですから、良いところがきちんと引き継がれるよう、学校間の教育課程のすり合わせが大事であるというご指摘です。事務局の考えはどうでしょう。

(事務局) 両校の管理職が退職あるいは異動見込みとなっている状況ですが、そういった意識がしっかり引き継がれることを期待しています。

(教育長) 検討会と並行した学校間のすり合わせについてでした。

(望月委員) 学校統合を経験された方々から色々気付かされるご意見をいただきました。私が意見を述べるようなことは無いのですが、近くで見ている南部中学校の統合後の評判が良かったので、先生方のご意見と合わせて参考にされたらどうかと思いました。

(教育長) これまでの地区懇談会やアンケートで様々なご意見をいただきました。その声を拾いながら充実した統合事業を進めるという観点から事務局の考えを述べてください。

(事務局) スクールバス、児童館、子供のメンタル等々、たくさんの意見をいただきました。それらを抽出し整理して検討会における資料とし、統合に反映させていきたいと考えています。

(教育長) 今まで出た意見を整理し精査して、少しでも不安の解消につながるよう、要望が形になるよう努力することを確認したいと思います。

ここまで皆さんからご意見をいただきましたが、合併の形というのは町づくりに関わってくると思いますので町長のご意見をいただきたいと思います。

(町長) まず、1年前倒しで統合するという事は、時間の制約が出てきます。その厳しさはありますが、検討委員会を立ち上げ、同時に両校の良さを持ち寄った形での統合に持っていければ統合はスムーズに進むのではないかと思います。閉校に関するご意見がありました。私も閉校よりも新たな学校立ち上げに重点を置きたいと考えています。皆さんから非常に良いご意見をいただいたと思います。

(教育長) ここで1番目の議題、小学校適正配置についてまとめたいと思います。

良い統合にしていくため、特に学校が無くなる万沢地区の皆さんの思いも考えながら、まずは検討委員会を立ち上げ、それぞれの代表に検討していただくこと。早ければ来年の2月に立ち上げるということで、皆さんからいただいたご意見を参考にしながら事務局が準備を進めることをご確認ください。

(四條委員) 両校のすり合わせは時間がかかるので、できるだけ早く取組む必要があります。

(事務局) 両校管理職の異動が予想される中で、教育課程のすり合わせは年度内に開始する必要があるでしょうか。

(四條委員) 新任の管理職が赴任してその作業を開始するとなると、着手まで時間を要することが予想されるので、今やれることはやっておくべきだと思います。

(教育長) 学校間の教育課程等のすり合わせに関するロードマップを作っていく必要があると思います。四條委員のご指摘のとおり人事にも深く関わるので、県に配慮を求めていると考えています。

少し話が逸れますが、現在南部中学校で学校運営協議会を中心としたコミュニティ

ー・スクールという活動を始めて、徐々に「やって良かった」という思いが先生方や地域の方に根付きつつあります。校長会において、ゆくゆくは小学校にもこの取組みをお願いするという話をしていますので、新しい小学校についてはコミュニティー・スクール制度の導入を視野に入れたロードマップも必要になってくると思っています。

補強のご意見をいただきました。以上で1番目の議題を閉じさせていただきます。

(2) 中高連携について

(教育長) 2番目の議題として、中高連携についての話し合いを進めたいと思います。

スケジュールどおりであれば、既に町教委が参加する推進検討委員会が開かれ、その報告を兼ねた形となる予定でしたが、会議が12月21日に延期されたため、3校の校長と県教委が打合せをした会議資料を基に進めることを、まずはおことわりします。

事務局にその資料について説明を願います。

(事務局) 8ページは、高校改革・特別支援教育課から送られた「経過報告と予定」です。今後の予定には、第4回推進検討委員会の前に町教委及び教育委員に対する説明が組み込まれています。その後2月中旬に将来構想検討部会、3月中旬に第4回推進検討委員会が予定されています。9ページからは、11月22日に開催された将来構想検討部会の資料の一部です。内容は、生徒と保護者に対するアンケートの結果です。中学生に対する質問は、数学への意識や理解の程度、授業アシストへの評価などの項目、高校生には英語に関する質問が加わっています。前年度結果との比較も合わせて報告されていますが、取組みの効果が表れた結果となっています。保護者に対する質問は、事業・目標の周知や、事業内容についてです。3つの目標の周知割合は低いものの、事業の内容は高く評価されています。

(教育長) 先日、南部中学校の校長が来庁し、11月22日の将来構想検討部会の報告をしてくれました。その時の資料です。これを見ますと中高連携の意識の深まりですとか有用感の高まりが数字的な結果として出ています。だから一層進めたいというのが県の主張だと受け止めています。

(教育長) 次に、今後のスケジュールと南部中学校校長が挙げた課題点について、事務局の説明を願います。

(事務局) 今後の予定については前回会議でも説明しましたが、第3回推進検討委員会が延期され12月21日になっています。その他のスケジュールは前回内容と同じです。

次は南部中学校校長の指摘による課題です。

① 協定書の内容について

協定書の記載事項は、趣旨や目的など大まかな内容であり、詳細については協定締結前に「確約書？」を取交すとの説明だった。その時期についての説明はなく、平成30年4月からの加配を強く要望することを考えると、平成30年2月頃には確約書の内容を確認する必要があるのではないかと思う。

② 協定の締結時期について

5月中旬に協定を締結するとなると、保護者や地域への説明時期をどこに設定するのか決まっていない。当然事前説明するべきだと考える。

③設置時期について

5月に協定を締結して連携型中高一貫校設置が翌年4月になるということは、協定を締結した年度の取り扱いをどうするのかという疑問が残る。

④今後の動きについて

①～③について決定、実施していくことを考えると、第4回推進検討委員会を3月中旬開催では遅すぎないか。また、高校改革課とのやりとりにとどまっている感があるが、上位者同士のやりとりが必要ではないかと思う。

⑤第3回推進検討委員会について

町で①から④についてご検討いただき、第3回推進検討委員会の開催前にその内容を高校改革課に伝え、検討委員会で議題とする、あるいは回答を受ける形はとれないか。

という内容です。

(教育長) 前回ご検討いただいた内容は、協定書には必ず加配1を入れること、簡便な入試にはしないこと、一定期間が過ぎたら見直しをすることを盛り込むことでした。このことを主張するはずの会議が11月下旬開催予定から12月21日に延期されました。さらに南部中学校校長の話だと協定書の内容は大まかなものであり、細かな内容は確約書を交わすということ初めて聞かされたとのことでした。ですから確約書の中にこちらが主張する内容を盛り込むことを求めているかなければなりません。また、中学校としては人的体制が厳しいので加配を求めているわけですが、この日程だと平成30年度の加配を求めるのが無理なのではないかという話でした。皆さんのご意見をいただきたいと思えます。

(四條委員) 南部中学校の現職員体制では身延高校への派遣が厳しいということを受けて、加配を実現するためには高校改革課と義務教育課の連携が必要になります。県はまず協定の締結を優先して、加配についてはその後努力するという形になってしまうのではないのでしょうか。町としては、加配が無ければ中学校の負担が大きくなるだけですから、確約がなければ協定は締結しないと表明してもよいのではないのでしょうか。

(入月委員) アンケートでは効果があるという結果が出ていますが、大事なことは教職員の負担感がどうかということで、そのことを県では配慮していただきたいと思えます。今のアシスト授業の形ではかなりの負担が予想されます。当然加配が必要になるでしょうし、県下初の取組みですから県教委も考えてほしいところです。

中高の連携事業そのもののメリットは大きいと思えます。

(芦澤委員) 生徒のためになる事業なら良いのですが、中学校の現状は町単教員を加えてようやく学校運営を行っている状況です。県下で初の事業なのに、高校改革課と義務教育課の意思疎通が見られません。言うべきことはきちんと行って、なし崩しにならないよう注意すべきです。簡便な入試と他高校入試の問題の一方で教育課程の前倒しという話が出ましたが、そのようなことが可能かどうか疑問が残ります。県としての姿勢を明確に示していただき、加配くらいはしっかり付けていただきたい。南部中学校の生徒が静岡県の高校に進学する理由を分析し、身延高校としてどのように取り組むのか、保護者にしっかり説明していくことが大事だと思います。

(望月委員) 加配について、中学校現場の声が県にどれだけ届いているのでしょうか。現場の声を受け止めて、町教委としても強く要望していただきたいと思います。また、県教委は身延高校の存続について、中高連携とは別と捉えているかもしれませんが、中高連携と並行して魅力ある学校づくりに力を入れていただくことも保護者の立場として重要ではないかと思います。なお、アンケートで中学3年生の保護者の意識が低いのは、直接関係無くなるからだと思います。

(町長) 先日、身延高校の同窓会に出席した時に、現状をよく把握していない方から高校存続、中高一貫教育の進捗状況に関する質問が出まして、学校側が回答に苦心していました。身延町は身延高校への通学に対し無料のバスを出し始めました。それはそれで良いことなのだと思います。しかし、どれだけの生徒が身延高校への進学を希望しているのでしょうか。現況、身延中学校では約半数が身延高校に進学を希望しています。南部中学校で半数が希望したとしても定員よりかなり少ないわけです。私は中高一貫教育は身延高校の存続を考えての制度だと思います。

南部町教育委員会としては、中学校校長の意見を受け入れたわけですから、協定や加配について、その姿勢を貫くべきであり、安易な妥協はすべきでないと思います。

(教育長) 先程も申し上げましたが、予定されていた推進検討委員会の開催が先送りされたため、前回と同じように教育委員会が強く進めて行くことは何か、確認させていただく内容となります。

前回確認されましたように加配を付ける、簡便な入試としない、一定期間を過ぎたら見直す、この3点を南部町の主張として、これからも県に訴えていくということです。今後、県が来庁し教育委員会や教育委員に説明するという事なので、そういった機会を捉えて確約書の中に町の具体的な主張を反映できるような取組みをしたいと考えています。前回のまとめをさらに強めた形とすることでまとめさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【異議なし】

(教育長) ありがとうございます。以上で議題の1、2が終了しました。

(3) その他

なし

5 閉会 四條勉委員

先日、あるテレビ番組で2060年に山梨県の人口は50万人くらいになり、そのための取組みを開始するという報道がありました。日本全体が人口減ですし、県も町も減っています。そういう状況の中で10年後も20年後も見据えていかなければならないですし、小学校適正配置や中高連携について将来像はどうなっていくのか考えさせられます。

ゴルフが趣味なので桜峠を越えて朝霧方面に行くことがありますが、途中で稲子小学校があります。なぜ統合しないのか考えるのですが、バス通学を考えたときに大きなリスクを伴うことが容易に想像できますし、それぞれの立場で進められるもの・進められ

ないものがあるのでしょうか。そういう点では、南部町の小学校について1つの見解がまとまって、より良い学校づくりについての議論が開始されると思いますので、知恵を絞って提言できればと思います。

以上で第3回南部町総合教育会議を閉会させていただきます。お疲れ様でした。